

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習Ⅱ-2		必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
山鹿 隆義 他	C307	t.yamaga	月・火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	作業療法演習Ⅱ-2では、より高いEBMを実施するために、評価からプログラム立案までの流れにおいて、介入根拠を明示したプロセスを踏むことができる。また、これまでに学習した知識を統合し、対象者に適応できるように習熟する。授業方法は課題・双方向型の遠隔授業で実施する。				
学習上の助言	臨床実習において対応する主要な疾患について、現在まで学習してきた知識・技能を、実際の対象者に即して行動ができるようになるための演習になる。そのため、今までの教科書・資料を総復習する必要がある。				
教科書	特になし				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	これまで学習してきた知識・手技を事例に即して、使用することができる。			OT (2)、 OT (3)	
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間(時間)		
1	オリエンテーション、評価統合の解釈と焦点化	同時双方向型授業	復習：配布資料を復習する	1	
2	EBMの実践 批判的吟味(概論・検討)	同時双方向型授業	復習：医学論文を検索する	2	
3	EBMの実践 批判的吟味(検討1) フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	医学論文を検討する	2	
4	EBMの実践 批判的吟味(検討2) フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	医学論文を検討する	2	
5	EBMの実践 批判的吟味(発表)	同時双方向型授業	予習：発表資料を作成する	2	
6	事例基盤型学習(身体)：評価の吟味と解釈 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
7	事例基盤型学習(身体)：ICFによる統合と解釈 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
8	事例基盤型学習(身体)：生活ゴールの設定 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
9	事例基盤型学習(身体)：焦点化と目標設定 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
10	事例基盤型学習(身体)：治療プログラムの立案 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
11	事例基盤型学習(老年)：評価の吟味と解釈 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
12	事例基盤型学習(老年)：ICFによる統合と解釈 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
13	事例基盤型学習(老年)：生活ゴールの設定 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
14	事例基盤型学習(老年)：焦点化と目標設定 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

15	事例基盤型学習 (老年): 治療プログラムの立案 フィードバック: 授業時間内で実施 意見交換: 授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2				
試	確認試験	試験						
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		70	30	0	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	70	10	0	0	0	80	
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点			フィードバックの方法			
試験	①	✓	今まで学習した内容の習熟度について、試験を実施する。			試験後に実施		
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	事例について作業療法評価および治療プログラムが適切にレポート内で記載できているかについて、ルーブリックをもとに評価する。			講義内で実施		
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>教員: ◎山鹿隆義、小沢健一、中西康祐、榎田哲弥、浅野克俊、池谷政直、海保享代          クラスごとの演習となるため、シラバスの変更および日程の変更の可能性がある。その場合は、クラス担当の教員よりアナウンスする。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。          今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。</p> <p>この科目の単位修得が臨床実習 I の履修要件である。</p> <p><b>教員の実務経験:</b> 本科目の担当教員は 5 年以上の臨床業務経験がある。</p> <p><b>実践的授業の内容:</b> 事例検討を通して、各教員が臨床で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。</p>								